

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年3月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1174500767
法人名	株式会社日本社会事業開発研究所
事業所名	グループホームまつの木苑
所在地	369-1108 埼玉県深谷市田中95-1 (電話) 048-578-1191
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年2月28日

【情報提供票より】(平成20年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年7月8日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
または1日当たり1,500円			

(4) 利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 74.9 歳	最低 67 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小川赤十字病院、川本メディカルクリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームまつの木苑は、県北部深谷市の郊外に位置し、元旅館だった木造家屋を改造して設立されている。駅に近い住宅街にあり、木のぬくもりを感じさせ、日当たりも良好である。デイサービスを併設されていることから、デイサービス利用者との交流や行事なども盛んに行われている。特徴は、家庭的な雰囲気を出し努力をされている。また、日頃、ボランティアの受け入れも盛んになされている。地域との交流では、自治会に加入されて、美化活動などに利用者とともに参加されたり、地元小学校などの運動会に招待されている。天気の良い日には外に出ることが日課ようになっており、ホームでの生活を楽しく過ごしていただけるように努力・工夫されている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価について、まだ具体的な改善計画シートは作成されていないが、職員間での話し合いはなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員間での話し合いまでには至っておらず、管理者によって記入されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、これまで開催されていないが、今後検討していくこととなっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族からの意見や苦情などは、全職員に伝わるように連絡ノートで周知されている。これらの意見や苦情は後日、職員会議等で話し合い対応されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入されて、空き缶拾いや地元小学校の運動会などに出かけたり、避難訓練などで地域の協力を求めるなど、地域との連携を深めていく努力をされている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営母体である会社の理念はできているが、当該グループホーム独自の理念はできていない。		地域密着型サービスとしてのグループホーム独自の理念を作り上げることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会社が運営するグループホームの管理者を集めた会議の席では、理念の実践に向けての話し合いがされている。ホーム内では、管理者は日常生活の中で、利用者の立場に立って理念に基づいたケアサービスが提供されるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、美化運動などの行事に利用者とともに参加している。また、地域のお祭りや地元の小学校の運動会などに参加されて、地元の方々との交流に努めている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が記入されているが、その際に職員間での話し合いが持たれていない。		管理者と職員で話し合いをし、改善シート等を作成し、計画を立て具体的に改善に取り組むことが求められる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、まだ実施されていないが、今後検討していく方針である。		運営推進会議を早期に立ち上げて、会議を開催されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携では、ホームとしては不十分である。		ホーム側から市町村への関わりを持たれるように努め、ホームで作られた機関紙などを持っていくなどして、行き来する機会を持つことを期待したい。
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に状況報告をしている。月ごとに預かり金の報告や行事等の写真を送付するなどしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望などを伺うようにしている。ご家族からいただいた苦情は、連絡ノートで全職員に伝え、改善を図るようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の場合には、これからもホームに行き来することができる伝えて、納得してもらおうようにしている。利用者のダメージが少なくなるよう馴染みの職員が何日か勤務するように配慮している。		
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は会社(本部)で行われる研修やホーム内での研修(2ヶ月に1回)を受けている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと連携を取り、情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用の際には、体験入所してもらうことや日中家族と一緒に過ごしてもらうなどして、馴染めるように努めている。また、会社が運営する他のグループホームも見てもらい、自分に合ったホームを選んでもらうようにもしている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者を介護される立場だけに置かないようにしている。利用者のできることをしてもらうようにしている。また、利用者から学んだりして、支えあう関係づくりに努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントシートを作成し、入居者、家族の意向把握に努めている。マイペースで生活できるように、また、本人が言いたいことが言えるようにし、それを出来るだけ実現してあげるように職員は努力している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の担当制はなく、職員全員で取り組んでいく仕組みをつくっている。介護計画の内容について家族の確認をいただいている。職員は介護計画に対しては、意見や考えを言えるようにしているほか、できないことについてどうしたらよいか話し合いをしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、3ヶ月若しくは状態の変化に応じて行っている。また、利用者の状態が変化した場合には、看護師や介護職員からも意見を出してもらい、介護計画作成担当職員が見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に応じて、通院時の送迎や理美容院や買い物などの支援をしている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される前からのかかりつけ医への受診の支援も行われているほか、家族にも受診の結果を報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営する会社の方針としては、終末期に向けた体制の整備はできている。しかし、当該グループホームの場合には、まだ事例がないので話し合いはされていない。		入居される際に説明されているが、利用者や家族の気持ちも状況により変化していることも考えられるので、家族やかかりつけ医と方針の共有ができるように努めて欲しい。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねないような接し方をしている。また、記録等の書類の管理にも配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで、過ごせるよう、利用者が言いたいことを言えるよう、また、それが実現できるよう支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べることに楽しみを持てるように 季節にあったおやつ作りをされたり、食事の際、職員が同じテーブルにつき一緒に食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2、3日は確実に入浴できるように支援している。夜間の入浴は今のところ希望がないのでされていない。入浴を希望されない方には、無理強いほしないで翌日に延ばしたり、体調や機嫌を損なうことがないよう言葉遣いに気をつけながら入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、買い物、散歩、洗濯物畳みや掃除など自分でできることは利用者にしてもらっている。利用者の残存能力を活かした取り組みがされている。不機嫌な利用者には、本人の生活歴を踏まえて工夫したり、関わる職員を代えてみるなどの配慮をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日には、散歩に出かけたり、食材の買い物に出かけたりしている。また、行きたいところがあれば併設のデイサービスの車両で出かけている。日常的に外出できるように支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、出たいときには出られるようにしている。夜間や早朝などの職員が少ない時間帯は、鍵を掛けるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施している。自治会にも地域の人々の協力が得られるようお願いしている。また、消防署の協力を得て、年1回点検を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食は、グループホームで調理されたものを提供している。昼食と夕食は、地域の配食サービス会社3社を利用し、メニューに偏りがないよう配慮している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改修したので、家庭的な感じの家である。季節のものを飾ったりして、工夫が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを持ち込むことができる。居室はすっきりしている。混乱しないように、整理しやすいように工夫されている。		